

2024年度みじん子賞を受賞して

北海道富良野高等学校・北海道富川高等学校

1. 受賞の感想

このたびは「みじん子賞」をいただき、心よりお礼申しあげます。この賞は、ご指導・ご協力いただいた北海道立総合研究機構および富良野市の多大なるサポート、そして数年にわたり地道な努力を積み重ねてきた先輩方の取り組みがあってこそのものであります。この活動に関わった多くの方々を代表して、この素晴らしい賞をいただいたことを現部員一同大変喜んでおります。また、この賞を励みに、さらなる活動の力にかえていきたいと思っております。

2. 富良野高校科学部について

北海道の真ん中（へそ）に位置する富良野高校は、今年創立100年を迎えました。また、今年は市内の2つの高校が統合し、新設・富良野高校となった1年目にもあたります。富良野高校科学部の歴史は長く、高校設立当初より活動しており、一時期は40名以上の部員が在籍する大所帯で、全国大会にもよく参加していた時代もありました。現在は3名と少人数ながらも、これまで先輩方がつないできた研究を受け継ぎつつ、それぞれが興味・関心のあるテーマを探しながら、新しい研究を進めているところと取り組んでいるところです。

3. 活動の内容

今回、「みじん子賞」をいただいた研究については、2017年から8年間の取り組みをまとめたものです。富良野市の中心部から離れた地域では市の水道が通っておらず、そこに生活する方々が自分たちで管理する水道（自立簡易型水道）を利用している地区が数多くあります。その水道の配管は地図に記載されていないことや、水質について安全性が十分に確認されていないことが課題でした。そこで北海道立総合研究機構および富良野市水道課のご指導・ご協力を仰ぎながら、一部の人の記憶に頼っている水道の配管を聞き取り調査などでGISのデジタルデータとして作成し、また水質に関しても定期的に検査することで、安全性を確認することができました。デジタルデータは市と共有し、また水質については年1回の報告会で地域の方にお知らせしています。こうした活動が、私たちの住むまちの役に立っているということが、私たち科学部にとっても大変嬉しく、またやりがいのある活動となっています。

また、「地域の水を自分たちで守る」というこの活動がJICA（独立行政法人国際協力機構）の研修で紹介されたことがきっかけで、研修で訪れたアフリカの方がこの取り組みを参考に自国で行い、成果を挙げたということもありました。そのつながりでJICAの研修会でこの取り組みを発表したり、同じ水の安全性について富川高校やインドネシアの高校と意見を交換し合う機会があったりと、私たちとは違う課題や考え方をもつ方々と触れ合う



写真1 採水方法について指導を受けています



写真2 採水の様子



写真3 採取した水の分析を行っています

ことで、私たちも多くの刺激を受けています。

今後ともこの活動を通して地域の水の安全に貢献するとともに、多くのつながりの中で広い視野や考え方をもてるよう、活動を続けていきたいと考えています。

謝辞

この受賞にあたり、全面的に協力してくださった北海道立総合研究機構の牛島様、長谷川様、富良野市役所の鈴木様はじめ、多くの皆様にご指導や適切なアドバイスをいただき、大変お世話になりました。心より感謝申し上げますとともに、この場を借りてお礼申し上げます。